



勝沼醸造のぶどう棚

日

本の源流再発見

File 23

山梨県甲州市

ぶどうと共に発展を続ける



山梨市、笛吹市とともに日本遺産「葡萄酒が織りなす風景—山梨県峡東地域—」に認定された甲州市。なかでも勝沼町は古くからぶどう栽培が行われ、1000年以上の歴史があるとされています。ワインづくりにもいち早く取り組み、ぶどう畑が連なる独特の景観が生まれました。

ぶどう畑とワイナリーが連なる山あいの町

日本のワインは、近年とてもおいしくなったといわれています。実際、多くのワインが海外のコンクールで金賞を受賞するなど、世界的な評価も高まっています。この日本のワインの原料となる代表的なぶどうの品種は、白が甲州、赤がマスカット・ベリーA。特に甲州は日本固有種で、山梨県甲州市勝沼町で古くから連綿と栽培が行われてきました。

1877年に日本最初の民間ワイン会社「大日本山梨葡萄酒会社」(メルシャンのルーツ)が設立され、2人の青年がフランスに派遣されました。帰国後、本

格的なワイン醸造に取り組みます。その後多くの後進が続き、現在では町内に30軒のワイナリーがあります。町内を巡ると、ぶどう畑とワイナリーが次々と現れ、まさにぶどうとワインの町。多くのワイナリーでは、施設見学やテイasting・購入ができ、ワイナリー巡りを楽しめる環境を整えています。

そのひとつ、丸藤葡萄酒工業は1890年創業という老舗。同社のブランド「ルバイヤート」は、詩人で英文学者の日夏耿之介が命名したそうです。日本は雨が多いため、ぶどうの枝を棚にはわせる棚栽培が主流ですが、同社



丸藤葡萄酒工業に飾られているレリーフ

は垣根式栽培で欧州種「カベルネ・ソーヴィニヨン」や「シャルドネ」などの栽培にいち早く取り組みました。老舗でありながら、果敢な挑戦を続けるワイナリーであるだけでなく、初期のころには垣根式栽培の剪定講習会などを開催



▲ 勝沼醸造

勝沼醸造のゲストハウスは、元々ワインの醸造所でした。今でも貯蔵庫だったところにはワイン樽が並べられ醸造所らしい雰囲気が残されています



▲ 勝沼堰堤 祇園の滝

基礎の一部に日本で初めてコンクリートを使用、その技術が後の堰堤へと受け継がれています。今でもその姿は迫力満点



▲ 丸藤葡萄酒工業

コンクリートタンクを改修した見学コースの一部。壁の酒石が、ワイン貯蔵庫だったことを物語っています。この回廊の最後に現れる美しいスタンドグラスも必見



▲ 日本最古のぶどうの木「甲龍」

甲州市指定文化財に指定された1978年当時、すでに樹齢80年といわれていたとか。今でもたくさんの実をつけています

し、他社にも垣根式栽培の普及を押し進めました。

1937年創業の勝沼醸造は、甲州やマスカット・ベリーAなど日本固有の品種にこだわるワイナリー。前身の製紙業から改造された旧醸造所であるゲストハウスが美しく、ぶどう畑が前に広がるテラスでテイastingを楽しむこともできます。なお、丸藤葡萄酒工業、勝沼醸造とも、和風建築のワイナリーが日本遺産の構成要素となっています。

勝沼町を流れる日川は形状が急で、たびたび土砂災害に見舞われました。そこで、1915年砂防堰堤(ダム)の建

設に着手し、1917年勝沼堰堤が完成しました。その後、1931年までの間に勝沼堰堤を含む13の堰堤が建設され、下流の田畑は水はけがよくぶどう栽培に適した土地となりました。山梨県の発展の基盤をつくったことから、経済産業省が認定する近代化産業遺産にもなっています。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた山梨県には株式会社 日立パワーデバイス 山梨工場があります。半導体部品および半導体応用機器などの低損失技術を搭載した製品群、それを支える高度な技術とソリューションで社会イノベーション事業に貢献しています。

株式会社 日立パワーデバイス 山梨工場 山梨県中央市一町畑545

<http://www.hitachi-power-semiconductor-device.co.jp/>

ココに注目

岩間ベーカリーの「月の雫」は、生の甲州ぶどうを砂糖でコーティングした甲州銘菓。砂糖の甘さと生ぶどうの風味が絶妙です。

